

Hawthorne と Bowdoin

岡 本 克 己

Hawthorne at Bowdoin

Katsumi OKAMOTO

Received September 20, 1985

初 め に

1983年夏の終りから初冬にかけて、文部省短期在外研究員として、メイン州ブランズウィックのボーデン大学 (Bowdoin College, Brunswick, Maine) を主滞在地に、アメリカ北東部ニュー・イングランド地方や西海岸にある幾つかの教育・研究機関を訪れ、資料調査・交換及び研究に従事する機会があった。短い期間であったが、その際あらためて感じたことは、一つには教育・研究施設が種々の制約のなかで、その本来の目的を達成するために総ての機能をあげて管理・運営されていることであった。例えば、大学図書館は平日・日曜を問わず、終日深夜の12時まで開館されることも稀ではなく、研究者や学生の便宜をはかっており、また、大学は「開かれた大学」として、文字通り機能し、その地方、その町の文化的中心となっていることであった。

この滞米中、何人かの学者、教育者——停年退職し、悠々自適の生活を送る老学者から大学院博士課程在籍中の若手気鋭の研究者たち——と接触する機会があった。そして充実した施設、資料を利用しうる環境のなかで、これらアメリカの研究者がみせる学問に対する烈しい意欲と真摯な態度に感銘をうけることが多かった。ボーデン大学 the Hawthorne-Longfellow Library 三階の 'special collections suite' で、テーブルをへだてて、一刻交歓した老令の教授の温顔、眼鏡の奥に光る深い学識と学問に対する誠実で謙虚な態度、また、図書館収蔵図書 *NATHANIEL HAWTHORNE: A Reference Bibliography 1900-1971* (ed. B. Ricks, Boston: G. K. Hall, 1972) や *NATHANIEL HAWTHORNE AND THE CRITICS: A Checklist of Criticism 1900-1982* (ed. J. Boswell, Metuchen, N. J. & London: The Scarecrow Press, 1982) などに記載されている拙論に対して、特別閲覧室で資料調査をしていた若いホーソーン研究者が示す強い関心など、当時を振りかえてみると、いろいろな情景が鮮明に心をよぎる。アメリカ各地の研究・教育機関、なかんずくホーソーンが多感な青春の4年を過した Bowdoin の教育、研究について、この在外出張中に痛感したことは、自由で率直そしてコスモポリタンの知的雰囲気であり、アメリカの研究者の強い知的好奇心と学問に対する誠実さ、謙虚さであった。1821年から

25年にかけて、若いホーソーンは Bowdoin の知的環境の中で師表に恵まれ、そして南に風光明媚な Casco Bay を望む清潔で穏やかな、しかし冬期には一面深い積雪に覆われるブランズウィックの町で、学生生活を送った。それは彼自身は何んと言おうとも、人格形成の面からも、また作家ホーソーンを考えるにあたっても、彼の人生で最も重要な4年間であった。本稿は Bowdoin 大学の発展、その過去と現在についての一つのレポートであり、また Bowdoin のホーソーンについてのバイオグラフィカルな考察である。

.....

1818年の秋から約一年間、当時14才のホーソーンは、家族全員——母 Elizabeth Clarke Hawthorne と2才年上の姉 Elizabeth (Ebe)、4才年下の妹 Mary Louisa——とともに、メイン州レイモンド (Raymond)³⁾に移り住み、数百エーカーに及ぶマニング家の土地で過した。そして1819年末、大学への進学準備のため、森と湖のメインの自然をあとに、家族と別れ、生来の孤独癖を一層深めながら、マサチューセッツ州セイレムの No. 12, Herbert Street⁴⁾ に戻った。その後、彼は、叔父 Robert Manning に伴われ、駅馬車に乗ってブランズウィックへ旅立つ1821年夏までの一年数ヶ月を、Salem の lawyer で著名な教師として知られていた Benjamin Oliver⁵⁾ のもとで、Bowdoin 入学に備え、ラテン語などの勉学に励むことになった。彼の大学入学は、甥の将来を考えた Uncle Robert の指示によるものであった。しかし少年のホーソーンにとって、Salem の一年余は甘える肉親もなく、一人孤独を堪えて過ごす月日であった。そして彼は Raymond の “the happiest days of (his) life” ——森の散策、水泳、釣り、狩猟、読書の日々——をなつかしみ、母 Elizabeth や彼の姉妹との別離を悲しむ手紙——そのなかには、Bowdoin 入学を前にして、母に宛て将来の職業（作家志望）について記した1821年3月13日付の私信が含まれるが——を、時に少年らしいユーモアをまじえ、幾通も書き送っている。以下に掲げるものは、現存している私信の一つであり、すべて原文のままである。（文中一部省略。）

Dear Mother,

As we received no letter last week, we are in anxiety about your health. All of us are well. . . . I have left school, and have begun to fit for College under Benjm L. Oliver, Lawyer. So you are in great danger of one learned man in your family. Mr. Oliver thought I could enter College next commencement, but Uncle Robert is afraid I should have to study too hard. I get my lessons at home, and recite them to him at 7 o'clock in the morning. I am extremely homesick. Aunt Mary is continually scolding at me. Grandmaam hardly ever speaks a pleasant word to me. If I ever attempt to speak a word in my defense, they cry out against my impudence. However I guess I can live through a year and a half more, and then I shall leave them. . . . Mother I wish you would let Louisa board with Mrs. Dike if she comes up here to go to school. . . . Shall you want me to be a Minister, Doctor or Lawyer? A Minister I will not be. I believe M. Louisa has not written one letter to me. Well, I will not write to her till she does. Oh how I wish I was again with you, with nothing to do but to go a gunning. But the happiest days of my life are gone. Why was I not a girl that I might have been pinned all my life to my Mother's apron. . . .⁶⁾

父 Captain Nathaniel Hathorne を幼くして亡くし、以後マニング家の庇護の下に生きる子供たちに対して、Elizabeth C. Hathorne がそれゆえ一層彼らを愛しみ、そして多分に甘やかしたであろうことは、母親の情として当然であったと思われる。ややもするとスポイルされがちな人格形成期のホーソーンにとって、現実的、实际的で、躰に厳格なマニング家、そしてそのなかでも、寄る辺ないホーソーン一家——“a family of exceptionally recluse habits”⁷⁾——に対して、一面においては、暗く悲しい思い出にみちたマサチューセッツ州セイレムからメイン州レイモンドに彼らの家を建て、移り住ませるという思いやりをみせるとともに、また反面、幼い甥の将来のために、家父長的権威をもって決断をくだす Uncle Robert の存在は、世間についての実際的な知識を初めてホーソーンに与えた Bowdoin の生活とともに、ホーソーンを鍛え、彼の将来に欠くことのできない影響を及ぼしたと考えられる。ホーソーンの無二の友であった Horatio Bridge は Robert Manning について、次のように述べている。“The world may well bless the memory of “Uncle Robert,” that his liberality was unfaltering, and that his estimate of the judicious course for his nephew’s education was so correct. Little, though, did he dream of the inestimable benefit he was bestowing upon all English-speaking peoples by his wise expenditure for the future author’s training.”⁸⁾ 少年ホーソーンはこの時期、Salem から Raymond の母に宛て、「作家になり、pen で身を立てる」という彼の夢を記した手紙を出しているが、そのなかで Uncle Robert に関して、“I dreamed the other night that I was walking by the Sebago ; and when I awoke was so angry at finding it all a delusion, that I gave Uncle Robert (who sleeps with me) a most horrible kick.”と述べている。それは Bowdoin 入学を半年後にひかえ、自己の人生、将来の方向を真剣に模索するホーソーンの心の成長を一方において示すとともに、大学進学についても Uncle Robert の庇護下にあり、自己が「自己の運命の主」「自己の魂の長」となりえない現実の中での、少年の小さな魂の反抗である。

Bowdoin College は1794年に創設され、1802年、アメリカの大学の大半が草創期にそうであったように、‘a liberal arts college’ として開学した。当時、施設としては “the College” と呼ばれたマサチューセッツ・ホール (Massachusetts Hall) 一棟——キャンパスに現存する最も古い建物で、1802年創建当時は、学長宿舍、礼拝堂、学生寮、講義室を兼ねていた。三階建ての小じんまりとした赤レンガづくりの建物で、現在でも研究・教育棟として使用されている。1971年 ‘a Registered Historical Landmark’ に指定された。(Appendix のキャンパス・マップ 1)——、また教授陣としては、学長と言語学の教授各1名、そして学生数は8名を数えるのみであった。しかし1820年代前半、ホーソーン在学当時には、アメリカ有数の地質学、化学の権威 Prof. Cleveland や古典語、レトリック、オラトリ担当の Prof. Newman、後年、卒業50周年記念の席上で Longfellow が讃えた Prof. Packard (当時 tutor で後の Latin 語教授)、また Thomas Upham らの優れた教授陣を擁し、Bowdoin の名は州外に知られていた。施設面では、Maine Hall (1808)¹⁰⁾ と Winthrop Hall (1822)¹¹⁾ が加わり、その後 Appleton Hall (1843)、the Chapel (1845～1855)、Adams Hall (1861) などが増設され、20世紀前半にはほぼ現在の近代的な学舎が整った。この間、数多くの優れた卒業生を世に送り出し、Kenneth C. M. Sills (学長在任1917～’52年) のもとに Bowdoin の名はアメリカ国内に拡まった。ホーソーンの在学した

Bowdoin 草創期には、各方面——政治、法律、学問、芸術など——で活躍する人材が輩出しているが、そのなかには例えば Nathan Lord (1809年卒、ダートマス大学学長)、Jacob Abbott (1820年卒、作家)、William Pitt Fessenden (1823年卒、Lincoln 内閣の閣僚)、Franklin Pierce (1824年卒、14代アメリカ大統領)、Nathaniel Hawthorne (1825年卒)、Henry Wadsworth Longfellow (1825年卒)、その他、数名の合衆国上院、下院議員、裁判所長官、Bowdoin 大学教授 (e.g., Prof. Calvin E. Stowe. 1824年卒) などがいる。Bridge によれば、ホーソーンが在籍していた1821年から '25年の卒業生総数は4クラス108人ということであるが、地方の小さな大学でありながら、これらの逸材を養成した Bowdoin の教育は瞠目に値する。その後も、Joshua L. Chamberlain (1852年卒。南北戦争当時の北軍の将軍、メイン州知事、Bowdoin 大学長。) William Pierce (1850年卒。合衆国上院議長[臨時]。)、Melville Weston Fuller (1853年卒。最高裁長官。)、Thomas Brackett Reed (1860年卒。下院議長。) など、余多の著名人が出ているが、北極探検で有名な Robert E. Peary と Donald B. MacMillan もそれぞれ1877年と1898年の卒業で、今日 Bowdoin の Hubbard Hall (1902—1903) に the Peary-MacMillan Arctic Museum がある。

20世紀後半に入って、Bowdoin の教育・研究にとって特筆すべきことは、1965年の the Hawthorne-Longfellow Library の完成である。これは旧図書館に代って建造された、地下一階地上三階建ての近代的な建物で、正面入口を入ったところに Longfellow と Hawthorne (Johnston 画) の肖像画が掲げられている。一階には“reference books”や“government documents”など、二、三階に“language and literature”——人文・社会・芸術部門(二階)、自然科学部門(三階)——の図書がおさめられている。Bowdoin の‘special collections’は空気調節された地階にあり、三階の Special Collections Suite で閲覧することができる。収蔵図書650,000冊(教官数100、学生数1,400)は、本学とはほぼ同規模のアメリカの大学としては充実した内容である。また、1970年代に入って Bowdoin は男女共学制をとるようになったが、¹²⁾ 聯邦及び州政府より一切の助成金を受けていない。¹³⁾ Bowdoin は、初代学長の提唱した“the Common Good”に奉仕する学識豊かな教養人の育成を目指し今日に至った、ニュー・イングランド北東部の伝統と格式を誇る liberal arts college である。

Fanshawe (Bowdoin 在学中に執筆され、1828年、卒業後3年目に出版されたアメリカで最初のキャンパス小説)の冒頭で、ホーソーンは作品の背景をニュー・イングランドの或る片田舎に設定し、次のように叙述している。——“In an ancient, though not very populous settlement, in a retired corner of one of the New-England States, arise the walls of a seminary of learning, which, for the convenience of a name, shall be entitled “Harley College.” ... The local situation of the College, so far secluded from the sight and sound of the busy world, is peculiarly favorable to the moral, if not to the literary habits of its students; ... A stream, that farther on becomes a considerable river, takes its rise at a short distance above the College, and affords, along its wood-fringed banks, many shady retreats, ... The neighborhood of the institution is not quite a solitude, though the few habitations scarcely constitute a village. These consist principally of farm-houses —— of rather an ancient date, for the settlement is much older than the College —— and of a little Inn, ... Other dwellings are scattered up and down the valley; ...” Bowdoin

の建つメイン州 Brunswick——イギリスの the House of Brunswick に因んで命名されたセツルメント——に最初の植民者 (Thomas Purchase) が入ったのは、メイ・フラワー号が新大陸に到着して 8 年後の 1628 年であり、その後この居留地は 1730 年までうちつづく the French and Indian wars のため三度にわたって戦火に焼かれた。町の発展は 18 世紀半ばより始まり、Bowdoin Campus の西側を南北に走るメイン・ストリートがつくられたのは、その世紀前半である。住民投票によって “12 rods wide” (幅員約 60m.——1 rod は約 5 m.) と決定したこの大通りはメイン州最大の街路で、州名をとって Maine Street と名づけられた。ホーソーンの友人 Horatio Bridge の回想によれば、18 世紀頃までボーデン・キャンパスを含む一帯は広大な松林 (Bowdoin Pines) であり、1820 年頃になっても、何哩にもわたって静寂につつまれたこの森が残っていたということである。そしてボーデン・キャンパス西側の Maine St. 沿いには僅かに数軒の家屋を数えるのみであった。(今日でも、この辺りは閑静な一画で、樹木のなかに白塗りの frame houses が散見している。) ホーソーンの在学していたこの 1820 年当時、Brunswick はキャンパスから北、アンドロスコギン川 (the Androscoggin) までの間に建つ 125 軒の家々を中心とし、20 軒ばかりの店、5 つの教会を持つメイン州の小さな町の一つにすぎなかった。¹⁵⁾ 人口 1 万数千の今日でも、Lincoln Street (a national historic district) や Federal Street Historic District など往時の街並みを残すこの町は昔日の閑寂をとどめている。“Brunswick in 1966, as it was in the 1820's, is still 'at a distance from any large town,' and Bowdoin students are more likely to deplore its isolation than to echo the praise Henry Dunlap wrote in 1820: 'It presents but comparatively few temptations, while its quiet and refinement make it peculiarly eligible for the purpose of study.'” 町は Portland (メイン州) の北東 26 マイル、Boston より約 135 マイル、グレイ・ハウンドでそれぞれ 30 分、3 時間 20 分の位置にあり、ホーソーンの旅立った 1820 年代当時には、4 頭立ての郵便馬車で平均時速 10 マイル、Boston~Brunswick 間は 13~4 時間以上の旅であった。¹⁷⁾

ホーソーンの Bowdoin 入学については、いくつかの理由が考えられる。ホーソーンにとっては、彼が 8, 9 才の頃より毎年訪れ (——叔父 Robert Manning の計らいで、彼の家を提供され——) “delightful days” を送ったメイン州レイモンドの自然、そして 1818 年以後彼の家族が移り住んだレイモンドと同じ州内にあり、つらい思い出の Salem を離れるということから、Bowdoin への入学は Harvard より歓迎されたことであろう。また Bowdoin のカリキュラムが Harvard 方式を採り、Bowdoin の名が世評に高かったということ、そして貧しいホーソーン家にとって、学費 (e.g., 1 学期—one term—の授業料, \$ 8.) が低廉であったことなどは、大きい理由となったものと想像される。Pearson の調査によると、1825 年のハーバード大生 (寮生) の学費等諸経費納入額は父兄宛通知によると、学年初めに \$ 234 (回生によって多少の増減) であり、その内訳は、授業料 \$ 57.50 (年平均額。——4 年間総額 \$ 230.), 食費関係 \$ 105 (38 週, 週 \$ 2.50), 教科書 \$ 15.00。寮部屋代 \$ 12.00。図書館 \$ 4.00。暖房, 修理, 大学便覧等 \$ 15.00。その他。そしてこれ以外に、衣服費、洗濯などの必要経費として \$ 180~\$ 300、総計 \$ 500 程度が必要であった。¹⁸⁾ 一方、Bowdoin 大の “Term bill” は後払い (次の学期の開講後 1 ヶ月以内) で、Horatio Bridge の “term bill—May 23, 1823” を例にとると、次のようになる。総計 \$ 14.49。内訳 Tuition \$ 8.00。Chamber rent \$ 3.34。Damages \$ 0.45。Average damages \$ 0.15。Sweeping and bed-making \$ 1.11。Library \$ 0.50。Monitor \$ 0.05。Catalogues \$

0.08. Bell \$ 0.11. Reciting room \$ 0.25. Chemical lectures \$ 0.25. Fines \$ 0.20.¹⁹⁾ (この学期には、教科書、灯り、暖房代は含まれていない。)これに対して、ホーソーンの“term bill, ending May 21, 1824”は総計\$ 19.61であり、上掲 Bridge の“term bill”と異なる部分は、Chamber rent \$ 6.67, Damages——, Average damages \$ 0.33, Sweeping and bed-making \$ 1.00, Bell \$ 0.12, Fines \$ 2.36²⁰⁾であった。

Bowdoin 入学後、叔父 William Manning に宛てたややあらたまった手紙や、母 Elizabeth に出した私信から推量する限り、家族と離れた林しきとはともかくとしても、ホーソーンは Bowdoin Pines のそびえ立つ大学の新しい生活に一応満足していることがうかがわれる。入学当初の1821年10月、ホーソーンは Bowdoin の生活について Raymond の母に次のようなことを記している。——“I am very well contented with my situation. I have a very good Chum, and find College a much pleasanter place than I had expected, but still I shall look forward with impatience to the Vacation, . . .”²¹⁾ またその数日前、叔父 William に宛て、ホーソーンはこの当時の彼としては丁寧な整った書体で、入学を報告し、大学生活に満足していること——“I am very well contented with my situation, . . .” (同文。)——、また規則 (the laws of Bowdoin) は思ったほどきびしくはないこと、そして大学の勉学は Salem の入学準備ほどでもないことなど、儀礼的に報告し、全体としては金銭的に余裕のない状態を示唆している。²²⁾ “Mother’s apron”を離れ、Bowdoin のホーソーンは母、叔父宛の上記二通の手紙に記されている room mate——Alfred Mason——とともに、学生時代の最初の二年間を Maine Hall (4 階建て) の一室に住むことになった。1822年3月、寮生の火の不始末によってこの建物が火災をおこした時、ホーソーンは一時学外 (キャンパス西の Maine St., Mrs. Adams 方) に下宿したが、修復後再びこの建物に戻っている。Bowdoin 大学図書館の Mr. Arthur Monk, librarian の話では、ホーソーンの寮室は Maine Hall 三階、西に面した一番北側の部屋 (No.19) であり、Pierce は No.26, また Longfellow は同じく三階の北に面した西寄りの部屋をあてがわれていたということである。(キャンパス・マップ参照) 今日でも学生寮として使用されているこの建物に、かつて Nathaniel Hawthorne が住んでいたという事実は遠い昔のこととなり、筆者が訊ねた限りでは在学生でそのことを知る者はいなかった。²³⁾ “1983—84 Calendar”によると、Bowdoin の Fall Semester (1983) 開講は9月5日であり、新入生の到着、入寮日は8月28日に指定されている。到着早々、ホーソーンが、家族、特に母宛の手紙に記し、待ちこがれた ‘vacation’ については、10月19日 (12:30p.m.) から10月24日 (8:00a.m.) まで——Fall vacation. そして Thanksgiving vacation は11月23日 (12:30p.m.) から11月28日 (8:00a.m.) までとなっている。²⁴⁾ 入学後1ヶ月余の1821年10月17日付母宛の手紙 (前出) にある「大学は思っていたよりずっと楽しいところです。」というホーソーンの言葉は、母を心配させまいとする心遣いが幾分働いていることは否定できないと思われるが、それ以上に、Maine Hall に入寮し “a very good Chum” を得て、新しい世界に対する不安が解消したホーソーンの偽らぬ気持ちであったと思われる。——“I am very well contented with my situation.” 彼は Bowdoin のホーソーンとして新しい世界に再生し、そしてまたあらたな体験を積みかさねていくことになるのである。

1821年9月当時、Bowdoin の授業科目はすべて必修であり、ギリシャ・ラテンの古典、英語 (文法、作文)、レトリック、ロジック、神学、バイブル (recitation)、心理学、倫理学、化学、

鉱物学、数学、幾何学、三角法、測量、航海術、その他の科目が設置されていた。Pearson によれば、ホーソー一回生当時の履修は次のようである。第一学期：クセノフォン (Xenophon in Graeca Majora)。リイヴィ (Livy)。ウェバーの数学。第二学期：Graeca Majora 第一巻。リイヴィ。数学 (継続)。第三学期：Graeca Majora (継続)。リイヴィ (終了。5冊)。マレイの英文法。ブレアーのレトリック。その他、全期の課業として、英文ラテン語訳、英文ギリシャ語訳 (共に毎週一回)、劇的朗読 (非公開)、バイブル (暗誦—毎日曜日夕) がある。また、二回生以降については次の通りである。

Sophomore year.

First term : Graeca Majora (extracts from Plato and Homer) ; Excerpta Latina (Tacitus) ; Algebra and Geometry in Webber, Playfield's Euclid, 2 books ; Hedge's Logic.

Second term : Graeca Majora ; Excerpta Latina ; Mensuration of Superficies ; Solids, Heights and Distances in Webber ; Surveying in Webber ; Euclid finished and supplement.

Third term : Navigation in Webber ; Review of Studies ; English composition.

During the whole year : Weekly translations in Latin and Greek alternately ; private and public Declamations ; Recitations from the Bible every Sunday evening.

Junior year.

First term : Graeca Majora ; Horace ; Conic sections in Webber ; Enfield's Natural Philosophy ; Lock's Essay ; Paley's Evidences once a week.

Second term : Graeca Majora ; Horace ; Enfield's Natural Philosophy ; Paley's Evidences ; Lock's Essay concluded ; Lectures on Chemistry.

Third term : Priestley's Lectures on History ; Henry's Chemistry ; Paley finished ; Review of Studies ; Forensic Disputation ; Lectures on Experimental Philosophy.

During the whole year : Translations into Latin and Greek alternately every fortnight ; private and public Declamations ; English composition every fortnight ; Recitations from the Bible every Sunday evening.

Senior year.

First term : Henry's Chemistry ; Paley's Natural Theology ; Stewart's Philosophy of the Mind (Vol. I) ; Paley's Evidences.

Second term : Astronomy in Enfield ; Dialling, Spherical Geometry and Trigonometry in Webber ; Stewart's Philosophy of the Mind (Vol. II) ; Burlemaqui on Natural Law ; Butler's Analogy.

Third term : Natural History, Cleaveland's Mineralogy ; Butler's Analogy.

Exercises during the year : private Declamations of each class, and public Declamations of the 3 upper classes. Compositions in English of the two upper classes. Forensic disputations of the Seniors. Recitations in the Bible every Sunday

evening. Two weeks preceding the examination are spent in review of the studies of the term.²⁷⁾

これらの中で、ホーソーンが関心をもったのは人文系の授業であり、なかでも語学関係、特にラテン語は得意な科目であった。彼はいわゆる優等生タイプの学生ではなかった。当時 Bowdoin には英文学の授業がなく、彼は時間をみつけていろいろな文学書に読み耽った。また、“Preface to *The Snow Image*” に記しているように、こっそりキャンパスを抜け出して Bowdoin Pines で blueberries を摘んだり、the Androscoggin を流れ落ちる巨木を眺めたり、魚捕りをしたり、その他 Bowdoin の規則を犯し、一言で言えば「大学当局が耳にしたこともないような、そしてもし発覚したら、きびしい処罰をうけたと思われるあらゆることをした」。また同じ頃、(1851~53年頃) Bowdoin の学生時代を回想して、彼は次のように述べている。“I was an idle student, negligent of the College rules and the Procrustean details of academic life, rather choosing to nurse my own fancies than to dig into Greek roots and be numbered among the learned Thebans.”²⁸⁾

学生時代にホーソーンが所有していた「ボーデン大学規程」——“Laws of Bowdoin College”²⁹⁾——が現在大学図書館に保存されている。これは30ページの小冊子で、次の9章に分かれている。

1. Admission into College 5
2. Officers and Discipline 7
3. Devotional Exercises and the Lord's Day ...11
4. Studies and Literary Exercises13
5. Misdemeanors and Criminal Offences19
6. Vacations and Absence22
7. The Library24
8. Chambers, Bills, and Expenses26
9. Commencement and Degrees29

そして粗末なペーパー・バックの表紙、裏表紙には、ホーソーンの特徴ある(縦長の)書体で、一面いたずら書き(ペン字)がされている。また、タイトル・ページ(右上隅に殆んど見えかかって Nathaniel Hawthorne, Salem, 1827の書き込み)には、各行に丁寧な細い赤の波線が、そして本文いたるところに赤のアンダーラインが引かれている。一見すると熟読のあとのようにみえるが、下線部分は概して各項最後の1, 2行、または各ページの最終行である。例えば、9ページでは赤のアンダーラインが引かれた最終行は“man, under whom he was placed, testimonials”で、意味をなさない。これは section 13 Suspension (13項 停学)の一部で、全文は次の通りである。13 The term of suspension shall never exceed nine months. A time shall be assigned to every suspended person for leaving the College and the town of Brunswick unaccompanied by any Student; and if he remain beyond that time, he shall be liable to an additional Punishment. He shall pursue his studies, agreeably to the direction of the Government, under such person, as they may appoint, or as his parent, at their request, may provide; and on his return shall produce from the gentleman, under whom he has placed, testimonials of his good conduct, during his whole absence. また文中

の下線も 9 ページまでで、10 ページからは各項の小見出し最後に付いている。例えば 11 ページでは右側マージンの小見出し Punishment of a few concerned in an offense. の最後 “offense” に下線がある。以上、この冊子は 20 代初めのホーソーンの一面を伺わせて興味深い。

叔父 William 宛の手紙（前掲）でホーソーンは “The Laws of the College are not at all too strict, . . .” と述べているが、1822 年当時この規程には勉強時間内（特に夕方）に寮室を出ないことなどを始め、次のような各項があった。学問、道徳に好ましくないと判断される部活動の禁止（12 項）、安息日の遵守（32 項）、礼拝等の宗教行事への出席（18 項）、土、日曜の夕、身を慎しみ、寮室に留まること（19 項）、休憩時間の規定（朝のレシテーションから 9 時まで。12 時～2 時。夕方の祈禱から 8 時まで）、また 34 項には次の禁止事項がある。飲食を提供する店に出入りすること。芝居見物。粗暴な言動。賭博まがいのゲーム、トランプ、玉突き。学内への酒の持ち込み。タバコ。などがそれである。English Composition や Latin に非凡な才能をみせたとはいえ、³¹⁾ホーソーンが勉強一途の学生ではなく、規則にとらわれず、むしろ再三それを破ったことが大学の記録に残っている。1822 年 4 月 14 日付の手紙から推察すれば、彼は入学後さほど日も経たない頃から賭けトランプに加わっていたことになる。そして翌月、29 日付 Madam Hawthorne 宛の学長名の書翰と 30 日付のホーソーンの手紙（Manning Collection）によって、彼の行為が発覚し、 $\$50$ の罰金を科せられたことが記録されている。Bridge の “term bill”（前掲）と比較すれば、ホーソーンの罰金がいかに多いか明らかである。Bridge はその後、1824 年 3 回生当時に、安息日にみだりに出歩いたかどで、ホーソーンとともに $\$25$ の罰金を科せられ、大学の規定について後年、 “a charge that would astonish the father of any collegian of the present day”（1860 年代）とコメントしている。ホーソーンはまた 2 回生当時、土曜の夜に “tavern” に出入りしたかどで $\$1$ の罰金を科せられている。Pearson によれば、一回生当時ホーソーンの処罰はカード遊びの他に、次の通りである。1822 年 4 月, absence from recitation（2 回 $\$40$ ）, public worship（ $\$40$ ）, ‘Sunday evening prayers（ $\$20$ ）5 月 neglect of recitation（訓戒）7 月 absence from college（ $\$20$ ）8 月 neglect of declamation（ $\$20$ ）。この傾向はその後変わらず、二回生になって、11 月 neglect of declamation（ $\$50$ ）4 月（1823）neglect of recitation（ $\$1.80$ ）, declamation（ $\$50$ ）5 月 absence from recitation（ $\$60$ ）8 月 absence 1 night（ $\$20$ ）, neglect of declamation（ $\$50$ ）, absence from public worship（ $\$20$ ）, neglect of theme（ $\$20$ ）, absence from recitation（ $\$20$ ）, special absence from recitation（ $\$20$ ）。また 3 回生の一年間の記録は次の通りである。1823 年 11 月 neglect of declamation（ $\$50$ ）1824 年 1 月 neglect of themes（ $\$1.30$ ）, absence from Sunday evening prayers（ $\$20$ ）, public worship（ $\$20$ ）, recitation（ $\$1.00$ ）4 月 absence from recitation（ $\$60$ ）5 月 absence from prayers（ $\$36$ ）, recitation（ $\$1.00$ ）,（安息日にみだりに出歩いたかどで $\$25$ の罰金—前出）7 月 absence from recitation（ $\$2.00$ ）, public worship（ $\$60$ ）, prayers（ $\$66$ ）, Sunday evening prayers（ $\$20$ ）8 月 neglect of themes and forensics（ $\$90$ ）, absence from prayers（ $\$36$ ）, Sunday evening prayers（ $\$20$ ）, recitation（ $\$80$ ）。³⁴⁾

以上の大学記録を通覧して明らかなように、ここには礼拝等の宗教行事への欠席、また themes と並んで recitation & declamation 等、教官や学生など人前での口頭課業に対する怠慢や欠席が記されている。これらはともに彼の生涯を通してみられる特徴である。Bridge によれば、演説、暗誦に対するホーソーンの嫌悪感は、彼が 12、3 才頃学校のステージに立った時、上級生に

野次られたことに起因するということであるが、³⁵⁾「生まれながらの孤独癖」³⁶⁾と相まって、speech に対する嫌悪感³⁷⁾は彼の生涯を通して消えることがなかった。Bridge はまたホーソーンの著しい特徴は“independence of thought and action”であると言っているが、強制された mechanical な礼拝、形骸化した教会は、ホーソーンにとって意味をもたず、彼の宗教的行事への欠席となったことが考えられる。³⁸⁾そして勉学においては Bridge の指摘する「思考と行動の自由」³⁹⁾をもって、与えられた科目の強いられた勉学、機械的な暗誦を好まず、興味のある科目や text 外の読書に熱中したのである。

Hawthorne was not studious in the general acceptation of the term, but he devotes much time to miscellaneous reading. His facility for acquiring knowledge would, with little labor, have placed him in the front rank of his class. As it was, he took much greater interest in the humanities than in the abstruse branches of the prescribed course. Mathematics and metaphysics, as studies, he disliked and neglected, to his frequent discredit in the recitation-room; but the languages were attractive and pleasant. Especially did he like the Latin, which he wrote with great ease and purity. In other studies of the curriculum he stood hardly above mediocrity, and in declamation he was literally nowhere. He never declaimed in the old chapel, as the students were required to do on Wednesdays. Fines and admonitions were alike powerless. He would not declaim. To this peculiarity is to be attributed his failure to have a part assigned him in the Commencement exercises on graduation, though his rank, No. 18 in a class⁴⁰⁾ of thirty-eight, would otherwise have entitled him to one.

ホーソーンが“miscellaneous reading”にふけり、*Fanshawe* や未出版の短篇集 *Seven Tales of My Native Land*⁴¹⁾ を書き、作家への道を歩ませたのは Bowdoin の4年であった。そしてホーソーンが作家として世に出ることになった *Twice-Told Tales* (1837) の出版に尽力したのは Bowdoin 以来の親友 Bridge⁴²⁾ であり、学友 Longfellow は *The North American Review* (1837年7月号) に14ページに及ぶ書評を書き、ホーソーンの門出を祝った。Bowdoin 時代 the Athenaeum Society と the Peucinian Society に別れ、親しく交わることがなかったが、Bowdoin College が産んだ二人の偉大な芸術家を *A Guide to an Exhibit*⁴³⁾ は次のように評している。——“Longfellow was a man for his time; Hawthorne is a man for all time.”そして彼の人生最後の一週間(1864年5月11～18日)を共に旅し過したのは、40余年前 Bowdoin 入学のため Brunswick へ向う駅馬車で知り合い、以来終始変らぬ友情に結ばれた嘗ての学友 Franklin Pierce であった。

注

- 1 開学初期のボードン大学図書館についての次の事実は、草創期の大学図書館の状況をうかがわせて、興味深い。現大学図書館(the Nathaniel Hawthorne—Henry Wadsworth Longfellow Library)の落成記念行事として、1966年、同図書館で開催された展示会案内によれば、Henry W. Longfellow が母校ボードンの教授に就任した1830年当時、彼は大学図書館の librarian を兼任したが、その理由を次のように述べている。“At Bowdoin Longfellow served both as professor and as librarian. (The College Library was

- then open only one hour a day.)” —Richard Harwel, Librarian of Bowdoin College, *Hawthorne and Longfellow: A Guide to an Exhibit* (Brunswick, Maine: Bowdoin College, 1966), p.24.
- 2 拙稿, 日本アメリカ文学学会報ALSJ—XXII (1984)「特集—アメリカの学者」に拠る。
 - 3 メイン州南西端, Sebago Lake 東岸。(この湖は冬期には結氷し, ホーソーンがスケートを楽しんだと言われる。) Portland (Maine) より国道302号線で北北西約20マイル。尚, Brunswick は Portland の北東26マイルに位置している。
 - 4 ホーソーン家は彼の父 Captain Nathaniel Hathorne の死 (ホーソーンが四才の時 Surinam で熱病のため死亡) の翌年 (1809年) に Union Street からすぐ東側の Herbert Street にあるマニング家 (母方の実家。現在12番となっている。) に移った。Herbert St., Union St. はともに Salem の主要街路ではないが, 1700年の Salem の古い市街図にも記載されている。Herbert St. は町の中心 Salem Common の南側を平行して東西に伸びる二つの通り, Essex St. と Derby St. を南北につなぐ通りであり, Herbert St. のすぐ西側に, 平行して Union St. がある。両通りとも, the Custom House や the House of the Seven Gables の西, すぐ近くにある。また Salem Common や the Essex Institute から徒歩10分足らずである。尚, ホーソーンの家 (質素な二階建ての家) は今日では Union St. から Seven Gables の敷地内に移されている。
 - 5 当時 Bowdoin の入学志願者には次の準備が求められていた。——“to write Latin grammatically, and to be well versed in Geography, in Walsh’s Arithmetic, Cicero’s Select Orations, the Bucolics, Georgics, and the Aeneid of Virgil, Sallust, the Greek Testament, and the Collectanea Graeca Minora.” Mark Van Doren, *Nathaniel Hawthorne* (New York: The Viking Press 1949), pp.16-17.
 - 6 “Salem, Tuesday March 7th 1820” Manning Collection. Original in the Essex Institute.
 - 7 Horatio Bridge, *Personal Recollections of Nathaniel Hawthorne* (New York: Haskell House Publishers Ltd., 1968), p.32.
 - 8 *Ibid.*, p.35.
 - 9 Salem, March 13, 1821.
Julian Hawthorne, *Nathaniel Hawthorne And His Wife Vol.I* (Archon Books, 1968), p.107.
 - 10 キャンパス・マップ 13.
 - 11 キャンパス・マップ 14.
 - 12 Bowdoin 教育後援会 (the Bowdon Parents Association) の年次報告 (1982~1983年にかけての一年) によると, 在校生及び卒業生の父兄からの寄金は \$ 102,434.92であり, 前年度の Parents Fund の25%増であった。
 - 13 この部分は “Bowdoin: A Guide to the Campus” に拠る。
Appendix のキャンパス・マップ参照。
 - 14 “Harley College” を Dartmouth 等とする説もあるが, Fanshawe の執筆・出版時期, ホーソーン在学当時の Bowdoin 大学長, William Allen が Dartmouth より移り, ホーソーンが Dartmouth について一応の知識を持っていたと想像されること, また, その他, 作品各部の描写からも, “Harley College” を Bowdoin と見做すことは妥当であろうと思われる。
 - 15 Norman Homes Pearson, *The College Years of Nathaniel Hawthorne: Entered in Competition for the Henry H. Strong Prize, 1932*. Xerox. Speciall Collection, Bowdoin College Library.
尚, 1810年代, メイン州の総人口は30万弱, ニュー・イングランド全体でも200万に達しなかった。Boston は1840年頃においても人口6万の都市にすぎず, Salem は1万3千であった。(Higginson, T.W. ed., *The Hawthorne Centenary at Wayside, Concord, July 4-7, 1904*. p.160. Special Collection, Bowdoin College Library.) この項はその他, *Greater Bath-Brunswick-Freeport Area: Summer Guide, 1983* (the Bath and Brunswick Area Chambers of Commerce) などに拠る。
 - 16 *A Guide to an Exhibit, op. cit.*, Introduction.
 - 17 ブランズウィックへは, 今日 New York (始発), Boston 或いは Portland からグレイ・ハウンド (Bangor 行き) を利用することができる。空路 Portland まで行くのが簡便である。尚, Brunswick の夏と冬の平均気温はそれぞれ70°F (21°C) と25°F (-4°C) である。
 - 18 Pearson, *op. cit.*, p.6.
 - 19 Bridge, *op. cit.*, p.39.
 - 20 Pearson, *Ibid.*
 - 21 “Brunswick, Oct. 17th, 1821.” Manning Collection. Addressed to Mrs. Elizabeth C. Hawthorne, Raymond, Maine.
 - 22 “Brunswick, Octv. 9th. 1821.” Manning Collection. Addressed to William Manning, Esq., Salem,

Mass. (Appendix 参照.)

- 23 ホーソーンはまた学外, Bowdoin キャンパス北東角へ北西方向から伸びている Federal St. (キャンパス・マップ参照) No.25に下宿した。Longfellow も学生時代同じ家に下宿したことがあり, その後 Bowdoin の教授として Brunswick に戻った時, 白い 'frame houses' の建ち並ぶこの Federal St. (No.76) に住んでいたことがある。また, この通りの大学近くに (キャンパス北東角から徒歩3~4分, 東側に) the Stowe House (No.63 Federal St.) がある。Harriet Beecher Stowe が夫 Calvin の Bowdoin 大学教授就任にともない, 1850年から二年間, 移り住んだところである。Uncle Tom's Cabin (1852) の想を得たのは Bowdoin 大学北西角の前に建つ The First Parish Church においてであったと伝えられている。(19世紀前半, ブランズウィックには 黒人逃亡奴隷をカナダに逃がす 組織があり, 現在は Bowdoin キャンパス内にある Nos. 6—8 College St. — メイン・キャンパスの南側 — が, その「駅舎」となっていた。「6—8 College Street—(1827) The John Brown Russwurm Afro-American Center (キャンパス・マップ 31) occupies this double house which once served as a station on the “underground railroad,” concealing slaves who were escaping to Canada.” —The Greater Bath-Brunswick-Freeport Area: Summer Guide, 1983, op. cit., p.11.) 尚, Stowe House は “a National Historic Landmark” に指定されている。かつて正面入口から食堂へ通じる廊下横の部屋に飾られていた Stowe 夫人の草稿の一部は現在では見られないが, ここを訪れる人は多く, 春, 秋のシーズン中は観光バスの出入りが多い。そして食事時には昔ながらの食堂はレストランとして営業している。また1946年に新しく建てられた附属の宿泊施設 (inn) がある。
- 24 尚, 学期末試験は12月15~21日におこなわれ, Spring semester (1984) は1月18日開講, 3月16日 (12:30p.m.) ~ 4月2日 (8:00a.m.) —Spring vacation, 5月26日, 第179回卒業式挙行となっている。前掲 Pearson (p.5) によると, 入学試験を受けるため, ホーソーンが初めてブランズウィックに到着した日, Bowdoin では第16回目の卒業式が挙行されていたということである。
- 25 これら幾つかの科目は当時の時代的及び Bowdoin の置かれた地域的狀況を反映している。18~19世紀には, the Kennebeck 河畔の町 Bath を中心に, Bath-Brunswick 地域は Salem を始めとするニュー・イングランド地方の海運, 造船の中心地の一つとなっていた。Bath には, 船長や船主たちの立派な家が, 今日でも数多く住宅地区に残っている。また Brunswick には, Lincoln St. (No.11) に Captain George McManos の家が現存している。
- 26 By future classes the course of Mathematics now used at Harvard University will be studied in stead of Webber. —Catalogue of Bowdoin College, March, 1822.
- 27 Pearson, op. cit., pp.58-59.
- 28 Julian Hawthorne, op. cit., p.96. 尚, 前出 William Manning 宛の手紙 (Oct. 9, 1821)—Appendix—参照。
- 29 Given in Memory of Edward A. Noyes by his son, Sidney Webb Noyes, Class of 1902. Special Collection, Bowdoin College Library.
- 30 Appendix 参照。尚, ここには署名が合計8回, —前掲書, Hawthorne And Longfellow: A Guide to an Exhibit (p.10) では7回と記しているが, 上右寄りに4回 (Nathaniel Hawthorne など), 中央上下二本の横線 (印刷) のうち, 上の横線上に1回 (Nathaniel), 上の横線の下, LAWS (印刷) の左上に1回 (Nathaniel), 中央左寄りに1回 (Hawthorne), 下左寄りに1回 (Hawthorne) が認められる。また上の横線右上に Salem 1826, 横線上下逆に Laws of Bowdoin, 中央から下の横線まで Laws of Bowdoin College Massachusetts (4段), その下にも同様の語句がある。そして中央右寄りに, 下から上へ Laws of Bowdoin College と二回書かれている。タイトル・ページを見ると, 印刷 Joseph Griffin, 発行1824年と記されており, 本文の赤アンダーラインと違って, 同一筆蹟の殆んどの落書きが後になって (1826年) 書かれたものと思われる。
- 31 Pearson, op. cit., pp.15-17.
- 32 In August 1824 assignments for parts in the October Exhibition were made to both Hawthorne and Longfellow. Hawthorne's Latin dissertation was “De Patribus Conscriptis Romanorum.” Longfellow was assigned the Salutatory Oration in Latin. As delivered it was titled “Angli Poetae.” Hawthorne And Longfellow: A Guide to an Exhibit, op. cit., p.15.
- 33 “My occupations this term have been much the same as they were last, except that I have, in a great measure, discontinued the practice of playing cards. One of the students has been suspended, lately, for this offence, and two of our class have been fined. I narrowly escaped detection myself, and mean for the future to be more careful.”—Julian Hawthorne, op. cit., p.109.
- 34 Pearson, op. cit., p.28, p.38, pp.41-42. 尚, これらのホーソーンの記録に対して, Longfellow につい

- ては1823年8月26日 “special absence from recitation” のかどで20の処罰が知られるのみである。——前掲 *Guide to an Exhibit*, p.15.
- 35 Bridge, *op. cit.*, pp.33-34.
- 36 “I had always a natural tendency (it appears to have been on the paternal side) toward seclusion.” Julian Hawthorne, *op. cit.*, p.96.
- 37 Bowdoin 開学50年祭 (1852年) 出席のため, Brunswick を再訪した折, 口実を設けて speech を断ったことなどが知られている。
- 38 後年 the Old Manse でホーソーンは 僧職者に対する彼の敬意は日を経るにつれ薄れると言い, “We certainly do need a new revelation—a new system—for there seems to be no life in the old one.” と記している。(Mark Van Doren, *op. cit.*, p.215.)
- 39 現在 Bowdoin College Library に, ホーソーンが持っていた *The Vicar of Wakefield* (New York: 1807) —— The Gift of Roseoe H. Hupper, class of 1902—— が収蔵されている。タイトル・ページの上に, 彼の特徴ある書体で Nath. Hawthorne, Bow. Coll.[,] Maine. 巻頭のフライ・リーフには三回繰り返えして Nathaniel Hawthorne そして Salem, Massachusetts の書きこみがある。また巻末の見返しには作家ホーソーンを想わせる When lovely woman stoops to folly/And finds too late that men betray/What という書きこみがしてある。ホーソーンの死後, 夫人より遺品として Longfellow に贈られたものである。
- 40 Bridge, *op. cit.*, p.33. 尚, 引用最後の部分に関して, *A Guide to an Exhibit* はただ一言, 次のように記している。“Hawthorne did not give a commencement part, not standing high enough in his class.” (p.15) また Bridge は危うく留年をまぬがれたようである。(ibid.)
- 41 “It was while in college that he (Nathaniel) formed the design of becoming an author by profession. In a letter to me (Ebe) he says that he had ‘made progress on my novel.’ I have already told you (Julian) that he wrote some tales to be called ‘Seven Tales of my Native land,’ . . . I think they were better than ‘Fanshawe.’ . . . It was the summer of 1825 that he showed them to me. One was a tale of witchcraft,— ‘Alice Doane,’ . . .” (Julian Hawthorne, *op. cit.*, pp.123-124.)
- 42 後にホーソーンは Bridge に対する書翰を “Preface” として *The Snow Image* に掲載し, 彼の友情に感謝している。また1837年7月5日 Augusta (Maine) の旅中で, 次のように評している。“Bridge . . . combines more high and admirable qualities, of that sort which make up a gentleman, than any other that I have met. Polished, yet natural, frank, open, and straight-forward, yet with a delicate feeling for the sensitiveness of his companions; of excellent temper and warm heart; well-acquainted with the world, with a keen faculty of observation, . . . and never varying from a code of honor and principle . . .” (*American Notebooks, Centenary Edition VIII*, p.33.)
- 43 (p.44) 尚, 1842年ホーソーンは Phi Beta Kappa のメンバーに選出された。(Longfellow の選出は1826年。) またそれに先だって, 修士号を授与されている。この学位は当時 Bowdoin 卒業後3年以上を経て希望すれば, 授与された。(A *Guide to an Exhibit*, p.40, p.22.)

Brunswick, Oct. 9th. 1821.

Dear Uncle,

I suppose you have heard that I have entered College. I passed through my examination as well as most of the Candidates. I am very well contented with my situation, and do not wish to come back to Salem this some time. My Chum is the Son of the Hon. Mr. Mason of Portsmouth. He has money enough, which is perhaps unfortunate for me, as it is absolutely necessary that I should make as good an appearance as he does. The Students supply the furniture for their own Rooms, buy their own wood, and pay 2 dollars a term for washing, 1 dollar for sweeping, and bed-making besides various other expenses. I board at Professor Newman's with three other Students. The Laws of the College are not at all too strict, and I do not have to study near so hard as I did in Salem. The 5 dollars you gave me, has been of great use to me, and I did not tell Uncle Robert that I had it, so that I was richer when he left me than he supposed. I hope I shall have no occasion to call upon you for any more this term. If I should be in want of any, I shall confidently apply to you.

If Elizabeth has returned from Andover, I should like to have her write to me. I hope that Grandmother, Aunt Mary, Mr. & Mrs. Dike, Uncle Sam, Aunt Eunice & Ruth, and all my other friends are well.

I remain

Your affectionate Nephew,

Nathaniel Hawthorne.

Brunswick, Oct. 9th, 1821.

Dear Uncle,

I suppose you have heard that I have entered College. I passed through my examinations as well as most of the Candidates. I am very well contented with my situation, and do not wish to come back to Salem this some time. My Chum is the Son of the Hon. Mr. Mason of Portsmouth. He has money enough, which is perhaps unfortunate for me, as it is absolutely necessary that I should make as good an appearance as he does. The Students supply the furniture for their own Rooms, buy their own wood, and pay 2 dollars a term for washing, 1 dollar for sweeping and bedmaking besides various other expenses. I board at Prof. Newman's with three other Students. The laws of the College are not at all too strict, and I do not have to study near as hard as I did in Salem. The 5 dollars you gave me has been of great use to me. I did not tell Uncle Robert I had it, so that I was richer when he left me than he supposed. I hope I shall have no occasion to call upon you for any more this term. If I should be in want of any I shall confidently apply to you.

If Elizabeth has returned from Andover, I should like to have her write to me. I hope that Grandmother, Aunt Mary, Mr. & Mrs. Dike, Uncle Sam, Aunt Eunice & Ruth, and all my other friends are well.

I remain

Your affectionate Nephew

Nathaniel Hawthorne

Alphabetical Index

Adams Hall 15
 Admissions Office 65
 Alpha Delta Phi 43
 Alpha Kappa Sigma 55
 Alpha Rho Upsilon 41
 Appleton Hall 11
 Ashby House 37
 Banister Hall 12
 Baxter House 29
 Beta Theta Pi 40
 Bowdoin Orient 48
 Bowdoin Pines 52
 Brunswick Apts. 63
 Burnett House 42
 Chamberlain Hall 65
 Chapel 12
 Chase Barn Chamber 36
 Chi Psi 35
 Cleaveland Hall 18
 Coe Infirmary 25
 Coleman Hall 9
 Coles Tower 30
 Copeland House 49
 Cram Alumni House 50
 Curtis Pool 22
 Dayton Arena 24
 Dean of the College's House 36
 Delta Kappa Epsilon 32
 Delta Sigma 33
 4 South Street 64
 Getchell House 45
 Gibson Hall 6
 Ham House 44
 Harpswell Street Apts. 59
 Hawthorne-Longfellow Library and Hall 7
 Heating Plant 20
 Hubbard Hall 8
 Hyde Athletic Bldg. 23
 Hyde Hall 10
 Maine Hall 13
 Massachusetts Hall 1
 Mayflower Apts. 34
 Memorial Hall 2
 Moore Hall 26
 Morrell Gymnasium 19
 Moulton Union 27
 Newman Center 66
 Orient Office 48
 Pickard Field 61
 Pickard Field House 60
 Pickard Theater 2
 Pine Street Apts. 53
 Presidents' House 51
 Psi Upsilon 38
 Receiving Dept. 47
 Rhodes Hall 46
 Russwurm Afro-American Center 31
 Sargent Gymnasium 21
 Searles Science Bldg. 3
 Sills Hall 16
 Smith Auditorium 17
 Smith House 56

Theta Delta Chi 39
 30 College Street 57
 24 College Street 68
 Visual Arts Center 4
 Walker Art Bldg. 5
 Warehouse 58,62
 Wentworth Hall 67
 Whittier Field 54
 Winthrop Hall 14
 Zeta Psi 28

Numerical Index

1. Massachusetts Hall
 2. Pickard Theater, Memorial Hall
 3. Searles Science Bldg.
 4. Visual Arts Center
 5. Walker Art Bldg.
 6. Gibson Hall
 7. Hawthorne-Longfellow Library and Hall
 8. Hubbard Hall
 9. Coleman Hall
 10. Hyde Hall
 11. Appleton Hall
 12. Chapel, Banister Hall
 13. Maine Hall
 14. Winthrop Hall
 15. Adams Hall
 16. Sills Hall
 17. Smith Auditorium
 18. Cleaveland Hall

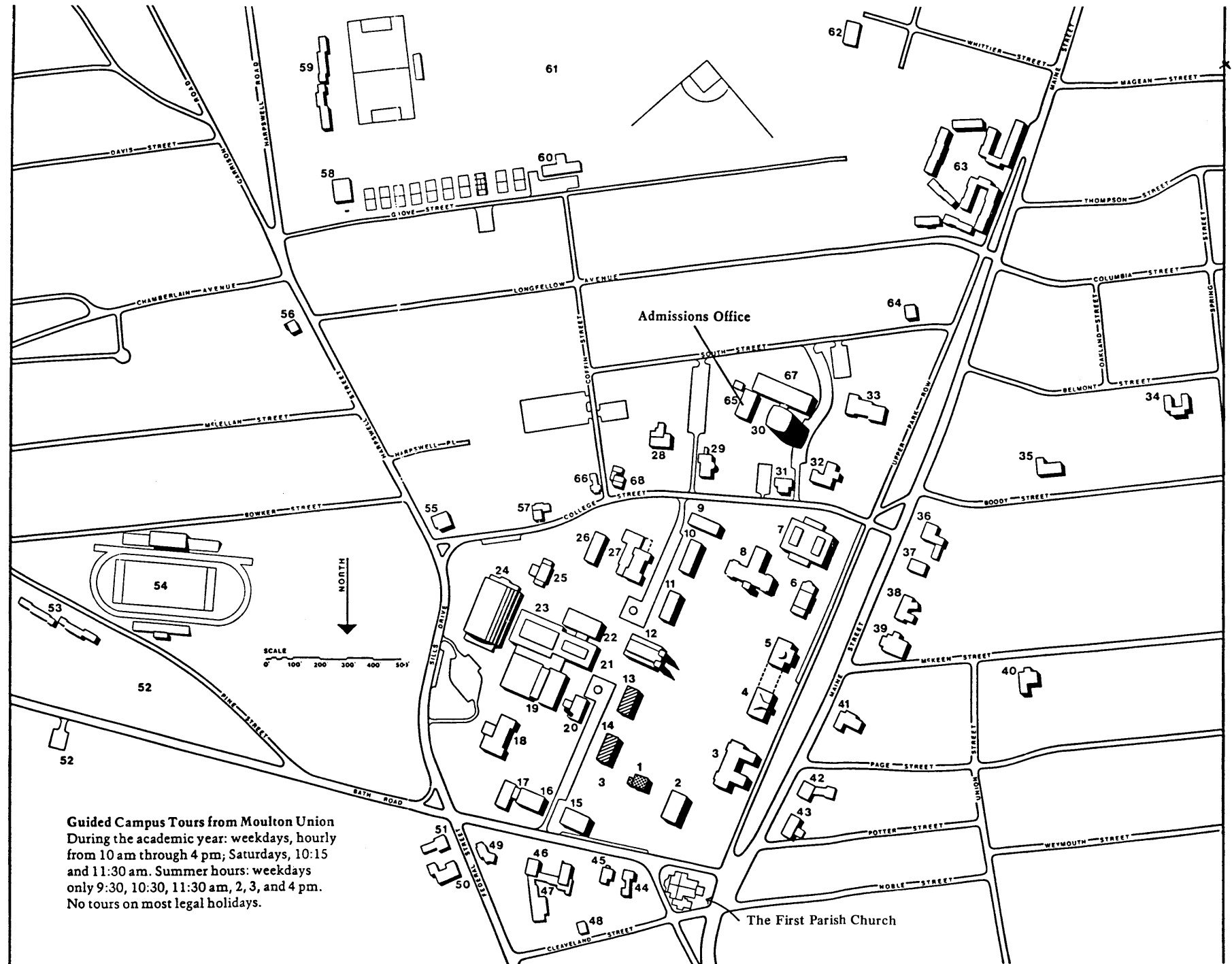
Numerical Index con't.

19. Morrell Gymnasium
 20. Heating Plant
 21. Sargent Gymnasium
 22. Curtis Pool
 23. Hyde Athletic Bldg.
 24. Dayton Arena
 25. Coe Infirmary
 26. Moore Hall
 27. Moulton Union
 28. Zeta Psi
 29. Baxter House
 30. Coles Tower
 31. Russwurm Afro-American Center
 32. Delta Kappa Epsilon
 33. Delta Sigma
 34. Mayflower Apts.
 35. Chi Psi
 36. Dean of the College's House, Chase Barn Chamber
 37. Ashby House
 38. Psi Upsilon
 39. Theta Delta Chi
 40. Beta Theta Pi
 41. Alpha Rho Upsilon
 42. Burnett House
 43. Alpha Delta Phi
 44. Ham House
 45. Getchell House
 46. Rhodes Hall
 47. Receiving Dept.

48. Bowdoin Orient
 49. Copeland House
 50. Cram Alumni House
 51. Presidents' House
 52. Bowdoin Pines
 53. Pine Street Apts.
 54. Whittier Field
 55. Alpha Kappa Sigma
 56. Smith House
 57. 39 College Street
 58. Warehouse
 59. Harpswell Street Apts.
 60. Pickard Field House
 61. Pickard Field
 62. Warehouse
 63. Brunswick Apts.
 64. 4 South Street
 65. Admissions Office
 66. Newman Center
 67. Wentworth Hall
 68. 24 College Street

Offices, Departments

Administration 7
 Admissions 65
 Afro-American Studies 31
 Alumni 7
 Art 4
 Athletics 19
 Biology 3
 Bookstore 27
 Business Office 7
 Chemistry 18
 Classics 16
 Computing Center 8
 Counseling 27
 Development 7
 Economics 8
 Education 16
 English 1
 Foreign Languages 16
 Geology 8
 Government 8
 History 8
 Ice Arena 24
 Infirmary 25
 Information Center 27
 Library 7
 Mathematics 15
 Music 6
 Orient 48
 Philosophy 1
 Physical Plant 46
 Physics 3
 Psychology 12
 Publications 45
 Public Relations 45
 Receiving 47
 Registrar 47
 Religion 1
 Security 46
 Sociology 37
 Student Union 27
 Swimming Pool 22
 Upward Bound 44



Guided Campus Tours from Moulton Union
 During the academic year: weekdays, hourly
 from 10 am through 4 pm; Saturdays, 10:15
 and 11:30 am. Summer hours: weekdays
 only 9:30, 10:30, 11:30 am, 2, 3, and 4 pm.
 No tours on most legal holidays.

Hawthorne at Bowdoin

In the fall of 1983 I had a chance to study abroad, and visited Hawthorne's Alma Mater, where I saw with my eyes the traces of his life there, and walked with my feet along the streets of Brunswick, where over 150 years ago he roamed alone or with his fellow Bowdoin man, as he writes in his affectionate dedication of *The Snow Image* to Horatio Bridge. This paper is an outcome of my observation there, of Bowdoin today and yesterday, and a biographical study of Hawthorne at Bowdoin.

In the years between 1821 and 1825 Hawthorne was at Bowdoin in Brunswick, Maine. In the town of Brunswick Hawthorne gained "his first practical knowledge of the world," and at Bowdoin he "formed the design of becoming an author by profession" and started writing *Seven Tales of My Native Land* and *Fanshawe*, his earliest novel and the first college novel in America. It was also at Bowdoin that he met his lifelong friends such as Horatio Bridge, Franklin Pierce, and Henry Wadsworth Longfellow.¹⁾

Hawthorne's copy of *The Laws of Bowdoin College* is interesting, with doodlings and signatures all over on its front wrapper and with meaningless underlines in red in most of the pages of the copy. It suggests an aspect of young Hawthorne in the 1820's, when he still spelled his name mostly 'Hathorne.' Hawthorne wrote in 1821 in his letter addressed to William Manning that "the laws of the College(were) not at all too strict," but there were regulations, the complete submission to which would have been impossible to a student with any spirit of youth. One, among others, was not to leave his chamber on the Sabbath. The college record shows that Hawthorne was fined \$ 25 for "unnecessarily walking on the Sabbath" with Horatio Bridge. It was "a charge," as Bridge later wrote, "that would astonish the father of any collegian of the present day (the 1860's)."

The college records are full of fines and admonitions to the undergraduates, with Hawthorne's name near the top. He was fined for "absence from or neglect of recitation, declamation, themes, and absence from public worship and Sunday evening prayers," etc.,²⁾ which shows that he was "an idle student," as he himself admits in his memoir and elsewhere, but also that he was a young man with "independence of thought and action." He disliked compulsory work and obligatory worship, and devoted much time to "miscellaneous reading."

To enter college was not of his own will, and though there was as much sorrow in him as despair of a soul who could not be "the master of (his) fate" in the summer of 1821, the four years at Bowdoin proved to be fruitful to Hawthorne, the artist.

Hawthorne was elected a member of Phi Beta Kappa in 1842, and died at Plymouth, New Hampshire, "sometime in the night of May 18-19," 1864, with Franklin Pierce, a fellow Bowdoin man, in the next room.

.....

1. Some years after his graduation Longfellow served both as professor and as librarian, for in the

early days of Bowdoin the library was "open only one hour a day."

2. Bridge says in his *Personal Recollections of Nathaniel Hawthorne* that "(Hawthorne's) rank, No. 18 in a class of thirty-eight, would otherwise have entitled him to (have a part assigned him in the Commencement exercises on graduation)." *Hawthorne and Longfellow: A Guide to an Exhibit*, however, bluntly states that "Hawthorne did not give a commencement part, not standing high enough in his class." (p.15) Incidentally, in the early days of Bowdoin, Master of Arts degrees were given almost routinely to Bachelors of Arts who applied for them three or more years after graduation. Hawthorne applied for the degree and it was given to him (and also to Longfellow and others).